

# 田んぼダムの取組の推進による浸水被害の軽減

災害時の効果発揮事例

概要 要: 上流域の水田で田んぼダムの取組を推進し、約291万トンの雨水を一時的に水田に貯留させることで、流域としての防災力が向上した。

府省庁名: 農林水産省

- 実施主体: 佐賀県
- 実施場所: 佐賀市ほか10市町
- 事業概要:

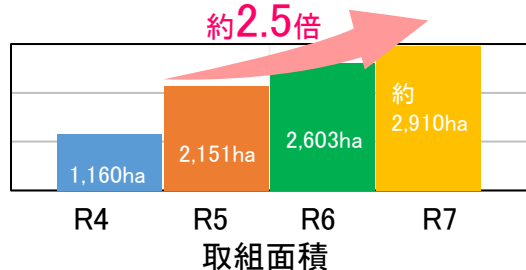
令和元年、3年の記録的な豪雨により、県内において、広範囲で内水氾濫による被害が発生したことを契機に、浸水被害軽減のため、令和4年度から田んぼダム推進事業を開始。田んぼダムの取組を佐賀の風土として定着させ、持続的な地域防災を目指す。(※県単独事業として実施。)

- 事業費: (百万円)

事業費	R4	R5	R6	R7	事業費計
佐賀県田んぼダム推進事業	23	52	43	47	165

- 被害と効果: ※R7は見込み

令和7年8月の大雨では、クリークの事前放流等と一体的に取り組むことで、浸水被害軽減が図られ、大規模な浸水被害は発生していない。※クリーク…網目状に張り巡らされた農業用排水路  
浸水被害の大きい下流域のことを思い、上流域で積極的に田んぼダムに取り組む地域が増える等、流域としての防災力が高まっている。



浸水地区の区長で構成する水害対策協議会が田んぼダムに取り組む組織へのお礼参り

## ＜田んぼダムの取組＞

- ・水田の排水口に田んぼダム用のせき板を設置することで、大雨時に雨水を一時的に貯留
- ・用排水路や河川への流出が抑制され、下流域の浸水被害が軽減



実施前

令和元年、3年の記録的な豪雨により、武雄市の六角川流域、佐賀市街地、神崎市南部など広範囲で、内水氾濫による浸水被害が発生

実施後

浸水地域の上流域、約2,910haで取り組むことにより、大雨時に約291万トンの雨水を一時的に水田へ貯留



田んぼダム  
実施

田んぼダム  
未実施